

Q&A

半年の間に出現した上行結腸の潰瘍性病変

【問題】

症例：77歳，女性。

既往歴，家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：特に症状はなかったが検診で便潜血陽性を指摘されたため，近医を受診して大腸内視鏡検査を施行したところ，上行結腸（パウヒン弁の対側）に Figure 1 に示す所見を認めた。半年前にスクリーニング目的で施行されていた大腸内視鏡検査では，同部位に異常所見を認めていなかった。

現症：体温，血圧は正常。腹部は平坦軟で，自発痛，圧痛や腫瘤などの異常所見を認めなかった。

血液検査所見：WBC 4900/ μ l，Hb 13.3g/dl，

CRP 0.05mg/dl，CEA 8.3ng/ml，CA19-9 24.4U/ml。

腹部 CT 所見：病変部の CT 画像を Figure 2 に示す。

臨床経過，画像所見から考えられる診断は？

解答は（2027p）に掲載

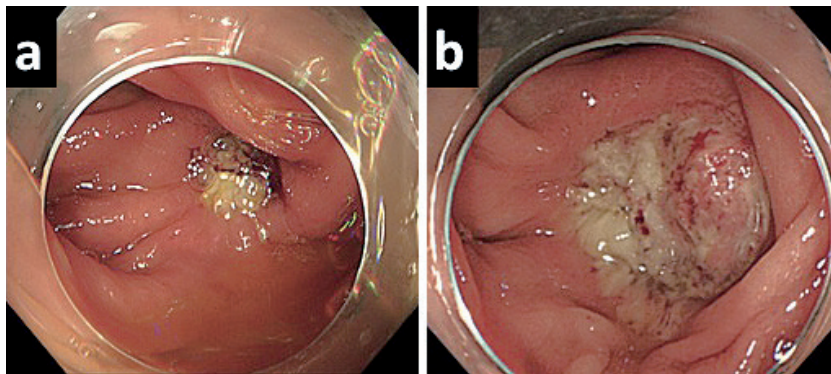


Figure 1. 大腸内視鏡検査 a：パウヒン弁の対側，b：近接像。

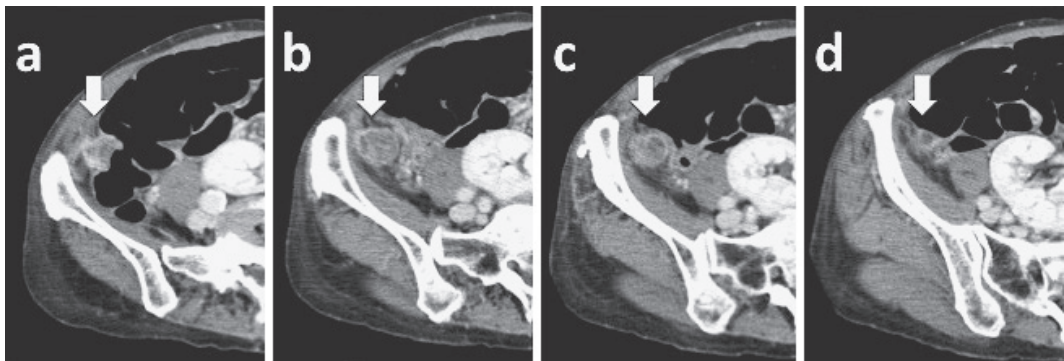


Figure 2. 腹部造影 CT：頭側から尾側へ a, b, c, d の順。a：上行結腸潰瘍性病変のレベル，b：虫垂開口部のレベル。